

10月のコラム ～ リアルの世界も共有したい～

IT関係の業界団体で、会員企業の中堅社員向けに毎年させていただいている研修があるのですが、コロナ禍で昨年と今年は、Zoomを使って実施しています。受講後のアンケートに「実際の職場では対面がなくオンラインでやり取りすることも多い昨今で、リアルだったらという話は不要だと感じました。」というものがありました。チームビルディングという研修内容のため、演習を多く取り入れています。グループワークでの「体温が上がる感じや一体感を感じてもらえないのが残念」と言ったことだと思いますが、互いの前提が異なるなかで伝えるのは難しいものだと実感しました。

業界や会社によってかなりの差があると思いますが、例えば私の姪は、昨年の春以降、出社は週1回で後は在宅と聞いています。彼女は、入社7年目ですが、昨春以降の新入社員は、「職場」という存在自体が「未知の世界」ということもあるのかもと思いました。

場面は変わって、ある小学校の運動会の話。今年は、学年ごとに順に運動場に出て演技し、他の学年は教室で一人一人自分のタブレットでその映像を見るそうです。多分黙って見るように指導されているでしょうから、共に歓声をあげて応援することなどないわけです。学年を超えて、学校全体で盛り上がるという経験ができないのですね。制限の多い中での先生方の工夫、ご尽力には頭が下がりますが、子どもたちが「運動会」という言葉から想像するものもが、私とは随分違ってくるのかもと思います。

短大や専門学校の学生は、在学中、ほぼリアルでの授業が受けられないまま卒業というケースも発生してきそうです。歯科衛生士が実習経験なしの卒業となり、必要な技術を身につけてくれているのかどうか心配という話も聞きました。ジェルネイルをしてもらいながら、そんな話をしていたら、ネイルの学校もオンラインらしいとのこと。「画面だと先生の手元しか映らないけど、本当は段取りとか道具の配置とかも勉強になるんですね〜」と。

他にもきっと色々な業界でこんなことが起こっているのでしょうね。

コロナが治まってもオンライン中心の仕事になる方もおられると思いますが、やっぱりリアルでないと感じられないこと、身に付かないことってあるのですよね。

巷では、冬には第6波が来るとの噂ですが、年内には、治療薬も出てきそうです。インフルエンザのように近くのお医者さんで診てもらって2～3日休めば治る。1日も早くそうなることを願います。

2021年10月 水田かほる